

「小川芋銭河童百図展」を終えて

小川芋銭の絵画は、他の画家の絵と比較すれば、墨の色も控えめで色彩も淡く、どちらかといえば地味な存在です。それに加えて、絵画の奥には、漢籍や和書、禅籍や仏典等々がちりばめられているので、いつしか、芋銭芸術は近づきがたい、というイメージが作られてしまいました。

このような芋銭芸術について、一般の方々は勿論ですが、小学生のみなさんの関心をどのように惹きつけることができるか、これが本展開催にあたっての最大の問題でした。

このハードルを下げるために用意したのが、子供用解説パネルです。

当館で開催した過去の展覧会を振り返ると、小学生の方々は、5分もしない内に展示室から出てきてしまいます。しかし、今回の展覧会では、このパネルを設けたためか、展示室内に留まる時間は、比較にならないほど延長されました。そればかりか、作品を前にして、ご家族で何やら会話を交わしている様子が、あちこちで見ることができました。こういったことは、当館の絵画展覧会で



写真は、上下とも難解と言われたきた芋銭芸術に、興味津々の小学生のみなさん。笑顔がとても素敵です。

は例をみないことでした。

小さな観覧者がやがて大人になった時、「そういえば、昔ウセンという人の不思議な絵を観たことがあったなあ・・・」と、記憶の片隅にでも残していただければ、所期の一つの目的は、達成されたこととなります。

実は、もともと子供用として作成したこのパネルは、一般の方々からも好評を得て、子供用パネルの文章総てを手に入れたいのリクエストがたくさん寄せられました。これは、うれしい誤算でもありまして、展覧会中途からでしたが、急遽手作りしてプリントし、ご要望にお応えするところとなりました。

これから展示物を紹介するとき、どのような視点で解説を付すればよいか、いろいろと考えさせられ、また収穫のあった展覧会でもありました。

